

訪日台湾教育旅行関係者招聘事業

ビジット・ジャパン・キャンペーン地方連携事業

地域(自治体等)と国(地方運輸局等)が連携して、訪日外国人旅行者を増やすため、主に以下の事業を推進。

- 日本向け旅行商品造成のための、旅行会社関係者等の招請等
- 海外の旅行博への出展等
- 海外の新聞・雑誌等への広告掲載等
- 海外向け情報発信のためのメディア関係者等の招請等
- 外国人観光客向けパンフレット作成等
- 訪日教育旅行促進のための教育関係者等の招請等



我が国では、官民一体となつて2010年までに外国から1000万人の来訪を促進するためにビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)事業を強力に展開しております。

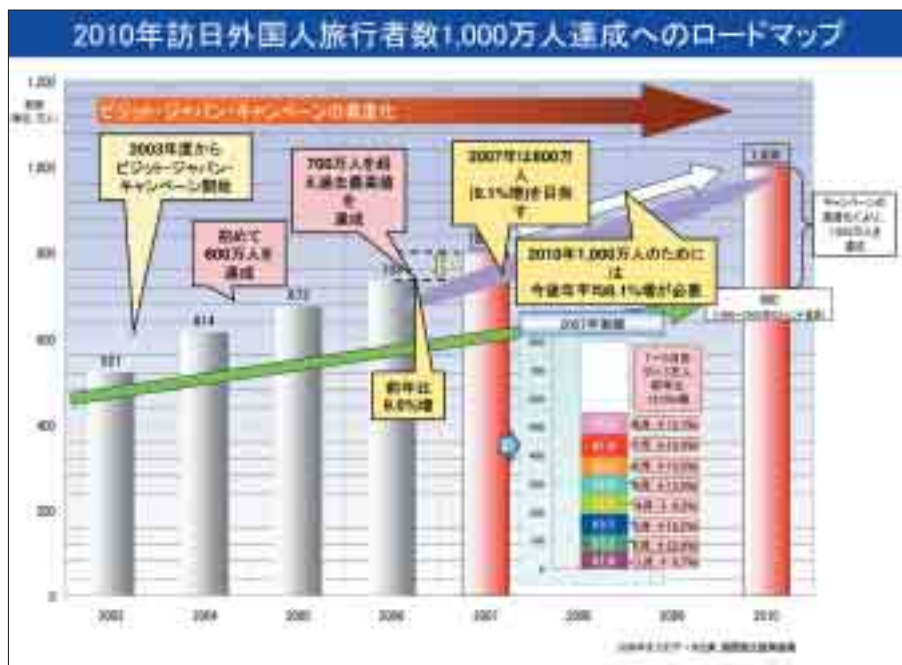
ビジット・ジャパン・キャンペーンの重点市場である台湾においては、日本への関心が非常に高く、(沖縄への入域外国人としては台湾人が約7割を占め

ています。)訪日旅行者数も年々増加しており、2006年には130万人を達成しました。2010年までに1000万人という目標を達成するためには、新たな旅行需要の開拓が必要であり、その一つとして、日台間で交流が進みつつある学生・学校間の交流「教育旅行」が計画されています。この教育旅行の推進により、若年層を対象とした今後の需要の開

拓やリピーターの創出に繋げ、さらなる入域拡大にもつながっていくものと期待されます。

6月20日・21日・23日の3回、VJC実施本部事務局の主催で、台湾現地において訪日教育旅行の説明会及び個別情報交換会が行われました。

運輸部は(財)沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)と連携して、沖縄への教育



- ・旅行の誘致に向け、台湾教育旅行の現状、ニーズを把握すると共に、沖縄の教育旅行の魅力を台湾側に伝えるべく台湾学校教育関係者を対象とする現地説明会及び個別情報交換会を実施しました。
- ・個別情報交換会において台湾の先生方からは、次のような質問・意見等が出されました。
- ・沖縄の高校数及び種類はどのようなになっていますか。
- ・沖縄の修学旅行の特色やセールスポイントはなんですか。
- ・沖縄にテーマパーク・水族館、遊園地はありますか。
- ・海で遊ぶ費用はどれくらいかかりますか。ダイビングも可能ですか。

・沖縄は日本本土の文化と少し違う文化を持つと聞いているが、沖縄で日本的な伝統文化を見学したり体験することは出来ますか。

これらの意見等から台湾の先生方は、沖縄といえば、「きれいな海」、「伝統文化」というイメージが強く、海でのアクテ

Ⅱ. 訪日台湾教育旅行関係者招聘事業



向陽高校訪問時の記念撮影

イビティや、伝統芸能、体験学習等に興味を持っている様に感じられました。

台湾での現地説明会を終え、VJC実施本部事務局では、台湾からの訪日教育旅行促進を目的として、2007年9月7日に台湾の教育旅行関係者80名（高等学校長・主任等うち15名はメディア、旅行者）を大阪に招聘し、日本側の教育旅行関係者と意見交換を行う「2007年日台教育交流座談会」を開催しました。

翌日は午前中に大阪府内の視察を行い、午後には9コースの各地域に分かれ各班約9名で、9月8日～9月12日の期間で北

海道、東北、関東、北陸信越、近畿、中国、四国、九州、沖縄の各地域を訪れ、学校訪問等・交流や体験プログラムへの参加などを行い実際の訪日教育旅行に向けてのモデルプログラムを体験しました。

沖縄関係では、OCVBが蔡（サイ）国立台中一中校長を団長とする台湾高等学校関係者8校8名（全員沖縄は初訪問）を招聘し、沖縄本島内の観光施設や、高等学校等を視察しました。

概要

9月8日

関西国際空港発

夕刻那覇空港着

9月9～10日

海洋博記念公園・東南植物楽園など主な観光施設を視察、伝統工芸・芸能の体験及び体験学習の視察。

9月11日

向陽高校を訪問し中国語講座の授業を見学、平和の礎を視察

9月12日

首里城、那覇市内の視察後、那覇発台北へ帰路。

視察直後には、沖縄への教育

旅行を検討するという学校もあり、アンケートの結果は、8人の参加者のうち「非常に有意義」6名、「有意義」2名でした。感想として、次のような意見がありました。

①沖縄の受け入れ体制は非常に心配りが行き届いてよかった。行程も豊富なもので深く印象に残った。
②行程の配分、受け入れが細かく心配りの行き届いたものであった。各行程の全体的な計画が妥当で、各施設に解説員がいて、豊富な内容であった。団員全体が沖縄側の手厚い待遇に尊重されているのを感じていた。

③沖縄県人の文化背景と特色を知ることが出来た。沖縄側のしっかりとした受け入れについて広く知らせたい。

④たくさんの体験活動をするこゝとができ、学生に多くの選択の可能性を提供することができ

⑤行程が豊富であった。シーカヤックや黒糖作りなどの体験が行えた。沖縄側の受け入れが非常に行き届いたものであった。行程の配分が良かった。時間の管理もすばしかった。

⑥行程の企画が良かった。たく

さんの体験学習が組み込まれており、教育的意義があった。多くの場所、文化を見ることができた。

以上の感想から、受け入れ体制の心配りと行程内容、沖縄文化、海でのレジャー体験等が好評なのが分かりました。

最後に、国の方針である2010年までに訪日外国人旅行者数を1000万人にするという目標を達成するために、今後とも沖縄の魅力ある海洋資源、世界遺産、伝統芸能等を海外に情報発信し、教育旅行実現により外国人客がますます増加するよう、より一層の推進を図って行きたいと思ひます。



海でのレジャー体験（本部町備瀬）